

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ブルー・レンジャー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.038	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ブルー・レンジャー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：レンジャー

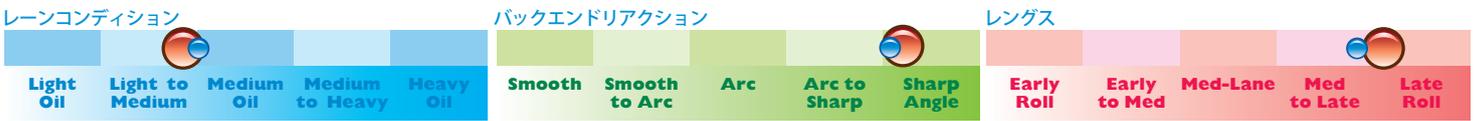
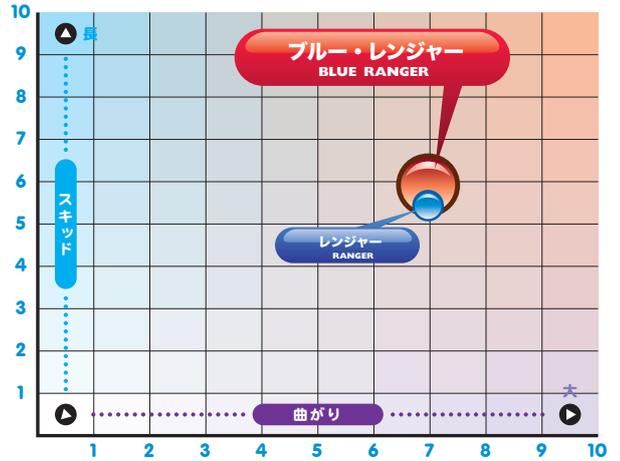
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

「ミディアムクラス最高峰」やはりこのフレーズがRANGERに当てはまります。初代RANGERからINVADERからのデータを白紙にして追い求めたパフォーマンスは”走ってキレル”が信条。このBLUE RANGERも間違いなく、皆さんを魅了する攻撃的なリアクションを叶えるべく、開発されました。

初代RANGERからの変更点はHYPER X™ REACTIVEのHybrid CoverStockからPearl Coverstockに変わったことで、スキッドレベルがあがるのと同時にBackendの動きがより鮮明になりました。ABSボール開発チームは数多くのブランドの開発を進める過程で各々のブランドが持つカバーストックの特性を踏まえ、特性に合わせたボールの開発は怠りません。

特にPro-amブランドにはオイルキャッチもされことながらドライゾーンでの反応が鋭いので、Backendの動きに着目し開発を進めています。RANGERとBLUE RANGERを比較投球すると、Hybrid CoverStockとPearl CoverStockとの差はスキッドレベルに顕著に表れ、RANGERの方がやや早めの立ち上がりを見せます。BLUE RANGERは同じラインだとやや薄めのヒットになるので、RANGERよりもやや薄めのオイルに合わせたアジャストが必要でした。ただドライゾーンの反応はブレーキのかかり具合が非常に良いので、やや外向きのラインでも十分戻すラインも選択できました。ミディアムクラスで価格帯もミッドプライスであるならば、このBLUE RANGERは非常にコストパフォーマンスに優れていると思います。走りに加え、先での動きが明確に見えますので、やや遅めのコンディションでもしっかりとした入射角が取れると思います。

このBLUE RANGERは10ポンドから用意していますので、LTBを中心に軽量でもパフォーマンスの良いボールをお探しのかたにおススメです。

特記事項

ミディアムクラスではABSの中でも最高峰の位置づけで開発されたBLUE RANGER 日本限定International製品のPro-amモデルの底力をしっかりとしたPerformanceで感じて頂けるはずです。